

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190800017		
法人名	株式会社 平安		
事業所名	グループホーム ききょう		
所在地	岐阜県山県市東深瀬505番地2		
自己評価作成日	平成29年9月5日	評価結果市町村受理日	平成29年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2190800017-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がごくごく自然に生活できるようにお手伝いさせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、開設12年目であるが、当初からの職員が4名勤務している。独自の介護方法を取り入れながら、利用者に温かい愛情を持って寄り添い、心豊かな暮らしを提供している。運営者は、職員が健康で、意欲を持って働けるように、勤務時間を柔軟に調整し、福利厚生充実の努めている。また、浴室のリフト設置や福祉車両導入は、職員の腰痛予防にもつながっている。屋根には、ソーラ発電システムを備え、敷地内に井戸がある。災害時の福祉避難所としても、市と協定を結んでいる。利用者の重度化が進行しても、介護と手厚い医療連携の下で、最期まで安心して、その人らしい生活が送れるように支援をしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の介護の中で、気付いたことや問題点を、職員全員で話し合い サービスにつなげるように心がけています。	理念は、解りやすい文言で、パンフレットや玄関に掲げている。その意義を考えながら、日々原点到に立ち返り、職員間で共有している。利用者が、家庭的な雰囲気の中で、穏やかな生活が送れるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供会が、毎年訪問して下さり、ゲームや歌、流しそうめん等を、一緒に楽しんでいただいています。イベント等は、告知板で地域の方々にお知らせしています。	地域の行事などの情報は、地元に住む管理者および職員たちからも得ている。食材や日用品は、地元の店で購入している。子ども会との交流を継続し、地域のボランティアとも、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症という病気は、かなり知られていると思われます。事業所の取り組みを地域の方々にもっと知っていただきたいと思います。個人的に相談を受けた時は、事業所の事をお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	三ヶ月ごとの会議をとおし、地域の理解や支援を求めるように心がけています。まだまだ認知症で困っている地域の方々が、数多く見えるのではないかと感じます。	運営推進会議は「事業懇談会」として、地域の役員、行政、家族が参加して開催している。事業所の活動状況や利用者の現状を報告し、意見を交換している。地域高齢者の課題や認知症についての理解を深めてもらい、それらを運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市と福祉避難所の協定を結んでいます。また、市の介護保険連絡協議会に参加しています。介護相談員の方々の訪問を毎月受け、直接ケアサービスの取り組み等を伝えています。	市の担当者が運営推進会議に出席した際、福祉関係の情報を提供している。事業所の運営や利用者の現状、空室情報などを伝え、協力や助言を得ている。災害時には、市と福祉避難所としての協定を結んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束という言葉自体、重く感じています。利用者様の意に沿ったケアサービスを心掛けています。個人的には無力ですが、管理者および職員同志が連絡を密にし、家族の方々にも、安心していただけるように心掛けています。	職員は、身体拘束の弊害を理解し、拘束は行っていません。安全上やむを得ない場合は、家族に説明し、理解を得て最小限に留めている。また、大きな声や指示的な言葉を使わないなど、抑圧感のない対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議など、日々確認し合っています。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進員の研修に管理者が参加し、日常生活自立支援や成年後見制度について会議において職員に伝えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時に説明し、契約時にも再確認をしています。また退所時にもケースに応じ、相談を受けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営胸推進会議や、ケアプラン作成時に家族からの意見要望を聞いています。また、利用者様に於いては、管理者や職員がそれとなく話しあい、できる限り不満がストレスにならない様に心掛けています。	家族の面会時やイベントの際、気軽に話せる場を設け、意見や要望を聞いている。利用者の要望は、日々の暮らしの中で把握をし、本人・家族の満足につながるよう、速やかに対処している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議を行うにあたり、職員が、問題点を色々と話し合ったり、問題点解決の提案をしたりして、より良いケアが出来る様に全員で検討しています。	全体会議は、職員全員が出席し、交代で司会を行い、食事をしながら、運営に関する意見交換を行っている。意見や要望は、管理者に伝え、現場の声をケアや業務の改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議において、職員同士のコミュニケーションがとれるように、食事会を兼ねて毎月行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	養成講座を受講して得た技術や知識を利用者一人一人の介護に役立てていけるように努めています。また受講者には、受講費の補助を行っており、県の講習会等に希望者は勤務として参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者との交流を図り、勉強する事は、とても良い事と思います。市の介護保険事業者連絡協議会に参加し交流を深めたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が入所された時に、本人の気持ちや要望を伺って、安心して生活ができるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望をよく聞いて利用者様に合ったサービスを提供しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族が今何を必要とされているのかを確認して話し合いをしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、利用者様に声をかけて、歌や体操、パズル、塗り絵など利用者様に合ったレクリエーションをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された時の本人の状況を説明したり、家族の思いを伺って介護に勤めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所当時は、知人友人の訪問もありましたが、年が経つにつれ、だんだん少なくなって来ております。	利用者は、ホームを訪れる人は皆、馴染みの人として喜んで迎えている。マッサージ師や理容師とも馴染みの関係になっている。行きつけの美容室や店での買い物は、家族と一緒に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知度によっては、意思の疎通が取れない状態になる事が多々あり、時には話の間に入ってお互いを傷つけることのない様に、また理解しあえる様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、御家族の要望があれば相談に応じています。また、「野菜ができたのでよかったら使って！」と来所される方も居られます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望は職員個人の受け取り方も様々です。小さな出来事やささいな言動にも注意を払い、日々職員同士の話題となり、話し合っています。	職員は、利用者とゆっくり向き合い、一人ひとりの言葉に耳を傾けながら、思いを把握している。意思表示が困難な人は、些細な言動を見逃さないように心がけ、個々の人生経験を受け止めながら、その人らしい暮らし方に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所されてから少ない時間の中で探していき、ケアプラン及び聴取り表を主に職員全員が把握し、サービス向上に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時は職員間で個々に気づいた情報を伝え合って把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の時に意見やアイデアを出して話し合い、本人によって、より良いプランを提供できる様になっています。	本人・家族の意向と、職員の意見や医師からの情報を基に、介護計画を作成している。利用者の持てる力を活かし、健康を維持しながら、その人らしく暮らせるよう、定期的に見直ししながら、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌に日々気づいたことを記入し、全員に伝えることとしています。職員会議においても個人の問題を前もって把握して内容ある話し合いとしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様全員に全く同じサービスを提供すると言うのは、大変難しいことです。やはり、利用者様一人一人の状態を把握し寄り添い、そして、その時々ニーズにあった支援を行っています。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の方々には、運営推進会議に参加していただき、施設の状況等を共有していただいています。また、市から介護相談員さんが来てくださり利用者様と会話され話を聞いていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医による受診をすることで細かな気づきができると思います。継続的に診ていただけることで治療方針も的確に進められています。	かかりつけ医は、家族の同意を得て、協力医に変更している。月に1回の往診があり、24時間の連絡体制がある。入居以前のかかりつけ医や専門医への受診は、家族が対応し、急変時には、総合病院と連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者一人一人の日常の生活に気づき、看護師に伝え、適切な健康管理、医療支援につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された時は、管理者が入院先の病室に顔を出し、利用者様が不安にならない様に努めています。また、早期に退院できるよう、担当医師と(状態と受け入れについて)相談をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が普段の生活で必要となれば、病院等への移動となりますが、できるところまでは、させていただく様にしています。終末期には、家族の同意をいただき、看取りをさせていただいたりもしています。職員は常に連絡しあって対応も柔軟に変化させています。	重度化と終末期については、「重度化・終末期対応同意書」を備えている。医療機関と連携し、できる限りホームで生活ができるよう支援している。終末期は、家族と医師、関係者で話し合い、病院への移転を含め、看取りにも対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防訓練は年二回開催し、事故発生に備え、通報、消火、避難誘導等の訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いつ起こるか分からない災害に備えて、消防訓練の折、消防士の方より、地震、水害に対しては、ハザードマップを利用して避難経路等々の確認をいたしました。	消防署立会いの下、通報や初期消火、避難などの訓練を行っている。併せて、水害や地震対応でも指導を受けている。災害時には、ソーラーシステムによる電源の確保ができ、井戸水も使用可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は他人に見られたくない 排泄、衣類の脱着、入浴など普段には見せない部分まで見られる事があるので十分に注意し、入浴等の時にはカーテンを閉めてプライバシーを守り、排泄誘導の場合には、声の大きさに注意を払っています。	利用者を、人生の先輩として尊重し、入浴や排泄支援など、羞恥心を伴うケアについては、特に細かな配慮をしている。言葉かけは、親しみをもって語りかけ、不穏な行動には、大きな声は禁句とし、誇りを損ねないように対応している。	利用者の清潔保持のため、衣類の洗濯は欠かせないが、形が崩れることもある。利用者の誇りを損ねないよう、家族とも話し合い、身だしなみへの支援に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	穏やかに過ごせる様に、一人一人の思いに耳を傾けたり積極的に声をかけたりしています。重度の方は、少しの表情の変化にも気を使っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴以外の日は午後からゆったりと一人一人の状態に合わせた遊びを提案し、相談しながら楽しく過ごしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の身だしなみなど、利用者様が明るく過ごしていただけるよう支援しています。美容院にも希望に応じています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事をし、楽しんでいただけるよう四季折々の食材を生かし、調理しています。	旬のものを取り入れながら、職員の手作りで提供している。利用者は、テーブル拭きができることを手伝っている。職員は、一人ひとりのペースに合わせて介助し、同じ物を食べながら、楽しい雰囲気づくりに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や形態は一人一人違うので全量摂取を目指し、調節しています。四季折々の食材を生かし、また野菜等をバランスよくとっていただける様に献立も工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、すべての利用者様に支援させて頂いています。自分で口腔ケアができる方は見守り声掛けして清潔保持に心掛けています。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の力や習慣をいかして、排泄パターンをつかみ自立に向けた支援をしています。	車椅子の人もトイレへ誘導し、排泄の自立を支援している。現在、夜間のポータブルトイレ使用者はいない。周辺症状を伴う人にも、こまめな対応により、おむつから布下着使用となり、落ち着いて生活できるようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が難しい人に対しては、体操等を実施したり、また、牛乳を飲むなりして排便を促す様にしています。暑い日の熱中症対策として、こまめな水分補給を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は決めて実施していますが、入浴時間はご本人の希望により長かったり短かったりと様々です。浴室内の職員との会話を楽しんだり、個々で楽しまれています。同時に体のチェックも致します。	入浴時間は、本人の希望を受け入れている。身体状況が低下している人は、複数介助でリフトを使用している。浴室では、利用者とのコミュニケーションを取りながら、気持のよい入浴を支援している。柚子湯や入浴剤も取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自の生活習慣やその時の状況に応じ、休息や睡眠をとってもらっています。寝具等は天気の良い日において、日干しを実行し、清潔な寝具にて「ゆっくり休んでね、」との声掛けにて就寝して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師が服薬支援は職員がしています。飲み忘れや誤薬がない様、何人かの目でチェックし服薬して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度の方が多くなって来た今、限られたことしかできないのが現状です。イベントには隣の施設まで外を散歩し、なるべく参加してもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現状において自力歩行の可能な方が少なくなって、日常的な外出は難しく、戸外でのレクリエーションにとどまります。	日々、ベランダで外気に触れている。また、周辺の散策と併設施設の訪問は、日常的である。リフト付きの車で、季節の花見や公園などヘッドライブを兼ねて出かけている。家族も馴染みの場所へ連れ出している。	

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が、自分でお金の管理されることは難しいです。必要な時は、管理者が必要に応じて対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使える様にしてあります。家族知人に手紙を書いたり、自分で色塗りしたりする支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングで寛いでみえても、来客が顔見知りであれば、笑顔で出迎えます。居室や他の利用者様を交えてリビングで話をされたりと楽しく過ごされています。	共用空間は、死角ができないよう工夫し、居室入り口の上に、利用者の動きを察知するセンサーを取り付けている。玄関には、南瓜の種を使った「ハリネズミの親子」を飾り、壁には、折り鶴作品を掲示し、生活感や季節感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを見ながら一緒に座ってお話されるスペースや、少し離れて1人になれる空間を用意し、自分の好きな場所でのんびり過ごせる様にしてあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の意見も取り入れ馴染みのものを生かしています。(花や飾り等)	居室には、ベッドと整理ダンスが備え付けてある。洋服かけや、家族の写真、趣味の作品などを持ち込み、個性的な飾り付けをしている。風通しもよく、居心地のよい居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	長い廊下の手摺りを利用され、自分の居室まで歩かれる事が大きな運動です。すぐに車椅子生活にならず、共同スペースやトイレに近い部屋に移って頂いたりも、しています。		